

(作成年月日) 2025 年 1 月 1 日

(臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名] 十二指腸副乳頭の形態による ERCP 後膵炎に対する影響を調べる後ろ向き研究

[研究の目的]

内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)に関連する検査・治療において代表的な偶発症の1つに ERCP 後膵炎があります。ERCP 後膵炎の発生機序は今のところ明らかになっておらず、確実な予防策もわかっていません。そのため、ERCP 後膵炎の発生リスクを把握することは重要であると考えられます。

また、十二指腸副乳頭は膵臓から排泄される消化液である膵液の排出路の1つであり、その役割から急性膵炎を防止する可能性が示唆されていますが、これまでそれを明らかにした報告はありません。

そこで、当院で ERCP を受けられた患者さんの十二指腸副乳頭の形態が ERCP 後膵炎の発症や重症化などに与える影響があるかどうかを検討します。それにより、現在よりも患者さんに負担の少ない治療を提供できるようになることを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2023 年 1 月～2024 年 12 月に当院で初めての ERCP を受けられた患者さんを対象としています。

○利用する情報

診療情報：性別・年齢・疾患名・血液検査・画像検査・ERCP 処置時間・偶発症内容・
ERCP 後膵炎の有無・治療内容・治療後経過

[研究組織]

香川大学医学部 肝・胆・膵内科学先端医療学講座 客員准教授 小林聖幸

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部 肝・胆・膵内科学先端医療学講座

担当医師 小林聖幸

電話 087-891-2156 FAX 087-891-2158